A　春日崎から道遊の割戸と上町・下町を望む

臨海鉱山都市としての相川は海成段丘などによって土地の利用が規制された。写真右上には、相川の象徴的な景観である「道遊の割戸」がみえる。その眼下にひろがる段丘上には、鉱山関係者が多く住んだ上町が、段丘下の海岸部には商業や廻船業で栄えた下町が広がる。

B　坑道と各種加工施設・積出港を結ぶ鉱車軌道

鉱山で採掘された鉱石は、鉱車に載せられ、粗砕場や選鉱場等での加工を経て、積出港である大間港に運ばれた。

C　北沢地区の近代鉱山施設と濁川

濁川の両岸に広がる北沢地区には、火力発電所・浮遊選鉱場・シックナーなど近代に建てられた鉱山施設が多く残っている。

D　鉱山町の面影を残す大工町の町並み

鉱夫が暮らした鉱山町のたたずまいが色濃く残る地区であり、伝統的な家屋も現存する。

E　テラス状の敷地に建てられた鉱山住宅

上町や下町の一部では、台地の斜面地に石垣を築いてテラス状の敷地が造成された。鉱山由来の石工技術が居住空間にも影響を与えている。

F　簡素な外観をもつ町家が並ぶ中京町

華奢な短い庇に代表される簡素な建物のすがたは、外洋に面した相川の厳しい冬を物語る。

G　近世に斜面を造成した際に築かれた石垣

上町の馬の背状地形に平坦な敷地を造成するため、大規模な石垣が構築されている。

H　旧相川裁判所の煉瓦塀とクロマツ

相川には多くの行政機能が集められた。奉行所や裁判所の周辺には、防風のために植えられたクロマツが今に継承されている。

I　中寺町の寺院と石垣

鉱山の繁栄は相川に多くの寺院を建立させた。寺院は段丘の斜面地に密集し、寺町を形成している。

Ｊ　下町から段丘上の下寺町へ至る石段

海成段丘を巧みに利用した相川には、坂道・石段が多くあり、それぞれに由緒を示す名称が付けられている。下寺町へ至る石段の両側にもテラス状の敷地が造成され、寺院や墓地が造られた。

Ｋ　直線的な街路によって区画された下町（三町目）の町並み

下町の海岸には埋立てによって大規模な敷地が造成され、直線的に伸びる道路沿いに計画的な町割がなされた。

L　三町目裏町の家並みと石垣

連続する板塀と金刀比羅神社の石垣が相川らしさを物語る。

M　海成段丘上に立地する鹿伏の農地と農機具小屋

町場の周辺には、都市の生活を食料供給の面から支えた農漁村が多く存在した。鹿伏の農地はその名残りを現在までとどめている。

N　相川の町々を一巡する善知鳥神社例祭の神輿行列

善知鳥神社の祭礼である相川祭りでは、神輿や高張提灯の行列が上町・下町・鹿伏を中心に巡行し、まちの安寧が祈られる。

O　廻船で運ばれてきた豪華なひな飾り（松栄家）

相川の豪華なひな飾りは、廻船で物資を運んだ帰りに京都などからもち帰られたものである。